「寒食」とは　中国春秋時代の晋の君主、**文公**（紀元前六九六～紀元前六二八、在位は紀元前六三六～紀元前六二八、姓は姫、諱は重耳、諡は文）は晋の公子であったが、国内の内紛をさけて十九年間諸国を放浪したのち、帰国して六十二才で君主となって天下の覇権を握った。斉の桓公と並んで斉桓晋文と称され、春秋五覇の代表格である。文公の遍歴中の忠臣は趙衰・狐偃・先軫・魏犨・介子推の五人とされている（荊楚歳時記）。

寒食節は、「晋の文公に仕えた介子推は論功行賞に漏れたことをきっかけに母と綿山の山中に隠棲した。子推の従者が思いあまって「龍欲上天　五蛇為輔　龍已升雲　四蛇各入其宇　一蛇獨怨　終不見處所」（龍は天を望み五匹の蛇がそれを助けた。今、龍は天に上ることができ、四匹の蛇もそれぞれいるべき所にいる。だが、一匹の蛇だけひとり恨み、いるべき所もない）という書面を宮門に掲げた。それを見て後悔した文公が緜上に柵をめぐらして介子推の封邑とし「介山」と呼ぶと共に「我が過ちを銘記し、善人を表彰する」こととした。しかし介子推は文公からの呼び出しに応じなかった。文公は介子推を参上させるために一本だけ道をあけて山を焼き払ったが、介子推は母を抱いたまま山中の洞窟で焼死した。憐れんだ文公は、山に廟を建てて介子推を祀るとともに命日から三日間は火を使わずに冷たい食事だけで過ごすように命じ、これが寒食節になった」とされている。

寒食雨二首 其一

寒食の雨（かんしょく）　（元豊五年　一〇八二　三月）

自我來黄州　我　黄州に来りし自り
已過三寒食　已に三たびの寒食を過（すご）せり
年年欲惜春　年々　春を惜（おし）まんと欲すれども
春去不容惜　春去って　惜しむを容（い）れず
今年又苦雨　今年　又（ま）た雨に苦しむ
兩月秋蕭瑟　両月（りょうげつ）　秋　蕭瑟（しょうしつ）たり
臥聞海棠花　臥して聞く　海棠（かいどう）の花の
泥汙燕脂雪　泥に燕脂（えんじ）の雪を汚（けが）さるるを
暗中偷負去　暗中　偷（ひそ）かに負（お）いて去る
夜半眞有力　夜半　真に力有り
何殊病少年　何ぞ殊（こと）ならんや　病（や）める少年の
病起頭已白　病（やまい）より起（た）てば　頭（かしら）已に白きに

蘇東坡　近藤光男より抄出

私が黄州に来てから、もう三度めの寒食の日がめぐって来た。毎年逝く春を心ゆくまで楽しみたいと思うのに、春はわたしの気持におかまいなくたち去って行く。そのうえ今年は降りつづくいやな長雨に、このふた月ほど、秋を思わせるようなうら寒い日ばかりだった。床の中で聞く雨音に、海棠の花の、紅で化粧した雪の肌も、ぬかるみ散っては泥まみれにされてゆくさまが目にみえてくる。[荘子に舟や山を深い谷や湖に隠すということが書いてあるが、私はこの〝春〟を、私が心ゆくまで楽しめるようになるときまで、どこかへ隠しておきたいものだ。しかしこれもまた荘子が言うとおり]暗闇に紛れてこっそり盗み出し、背負っていってしまう、そんな力持ちが真夜中に本当に現れそうだ。[こうしてこの地に、一年一年と春を送っていては]病気にかかった少年が、やっと病床を離れられるようになってみると、すでに白頭の翁であるのと、なんの違いもないことになるのだが……。